

「第 27 回企業環境セミナー」を開催しました(10 月 23 日)

NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会
環境マネジメント支援センター

2024 年 10 月 23 日(水)13:00～17:00、25 年前(1998 年 10 月)から千葉商工会議所と共催で継続開催している企業環境セミナーを開催しました。

ISO 14001 は、環境マネジメントを他のマネジメント(会社経営含む)と連結させ、トータルのパフォーマンスの向上をねらいとしています。2024 年 2 月に「気候変動への配慮」を ISO マネジメントシステム規格に追補されました。環境の持続可能性を促進する上で自社の果たす役割が明確になり、それらを推進して企業姿勢を示すことによってイメージの向上や新たな事業機会の創出が期待できます。

こうした観点から、『経営に役立つ「気候変動への配慮」をめざして』をテーマにした。

参加者は、一般(県内の事業者)が 16 名、来賓が 3 名、講師が 3 名、EC 千葉会員が 13 名の総勢 35 名で、昨年より数名多くの参加がありました。

開催にあたって、共催者を代表して NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会の吉田昌弘理事長が開会の挨拶をしました。続いて、千葉県環境生活部 次長 相葉正宏様より、地球温暖化対策等に関する施策や資金助成と協力要請を含めた来賓挨拶を頂きました。千葉県からは来賓挨拶等を通じて本セミナーを毎回ご支援いただいています。

第1部 基調講演

「中小企業にとっての脱炭素経営」

株式会社ちばぎん総合研究所 専務取締役 植松 克則 様

地球温暖化現象や国内外の防止取組みについて現状を解説いただいた。そして、脱炭素経営に向けたより積極的な取り組みや、その支援機関を紹介いただいた。脱炭素への取り組みは、地球のためと言うより企業発展のためと捉えるべきとのこと。



第2部 事例紹介

(1)「気候変動に配慮した食品工場の脱炭素の取り組み」

株式会社紀文食品 執行役員 供給本部副本部長 田中 真澄 様

はんぺん等の「水産練り製品」が代表的な商品で、その生産工程は攪拌、成型、加熱、冷却および衛生管理から成り、エネルギー消費量が非常に多い。2030 年 CO2 総排出量を 30%削減(2013 年度比)のロードマップを作成して推進されている。対策例として、ガスコージェネシステムの導入、重油から LNG への燃料転換、工場屋根の遮断塗装などを紹介いただいた。



(2)「気候変動に配慮した習志野事業所の省エネ活動」

株式会社日立産機システム ドライブシステム事業部生産統括部長 酒井 亨 様

高効率で CO2 排出量の少ない「グリーンプロダクト」の開発・販売、具体的には再製品化・再製部品化・修理・再使用・再資源化の 5R のサーキュラーエコノミーの実現に注力されている。空気圧縮機、モーター、インバーター、受変電機器、ポンプ、クリーンエア装置などについて具体的に紹介頂いた。また、CO2 排出量の削減につながる生産ラインの自動化や工場の IoT 化の提供についても紹介いただいた。



第3部 個別相談

1 社より、「夏場の暑い時期における業務中止はどんな時か」「物流用トラックの電動化はいつ頃か」について相談があった。NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会の担当者より調べた結果を説明して対応した。

基調講演および事例紹介2件はいずれもセミナーのテーマに沿った内容で、参加者の期待に沿えたと捉えている。アンケート結果においても、脱炭素化の具体的な事例紹介が非常に参考になったとの意見が多くあった。中にはマンネリ化している自社の温暖化対策を見直し、脱炭素経営のレベルにする変革する必要性を再認識したとの回答もあった。

以上